



医療用語辞典

最近よく聞くようになった医療用語を
わかりやすく解説。

【インフォームド・コンセント】 (informed consent)

医療関係者から十分な説明を受けた上での患者側の同意・選択。医師は患者に対して、検査結果、病状判断、治療の内容・目的・効果などについて十分説明し、患者の納得、同意を得て診療を進めることが必要だという考え方です。

【セカンド・オピニオン】

第二の意見という意味で、医療機関・医師の診療を受けている際に、主治医などの診断、治療法を選択などに納得できない場合や、もっと確かめたい場合に、別の医療機関・医師などの意見を聞いた上で、納得のいく診療を受けることで、別の医療機関・医師などの意見のことです。



広報誌hopeを リニューアルしました。

読みやすい誌面を目指して、広報誌をリニューアルいたしました。本文も読みやすいようにゆったりした組み方と温かみを感じる書体を採用し、色彩もユニバーサルデザインを考慮した彩色をしております。また「みなさまの声」「医療用語辞典」なども始まり、今後も皆様が「興味を持って読め、分かりやすい誌面」を目指します。



医療サービスの向上へ… 大切にします 「みなさまの声」



当院では来院される方、入院されている方のご意見をお聞きし、今後の病院運営に役立てたいと考え、病院内に投書箱を備えております。

投書箱に投函された「みなさまの声」は毎日回収し、サービス向上委員会で検討を行い、来院される皆様へのサービス向上に役立てております。

このコーナーでは、みな様から寄せられたご意見をご紹介します。その中で内容によってはすぐに解決できない事項もございますが、真摯に対応させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。 サービス向上委員会



胃カメラのファイバーが 細くなりませんか？

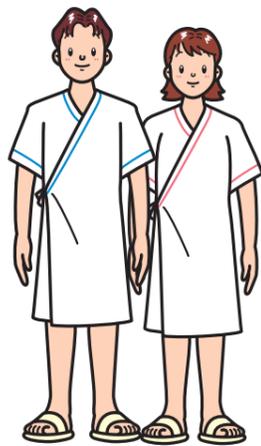
今年より、胃カメラのファイバーが全面的に従来使用していたものより細くなりました。今後は、鼻からのカメラ実施も検討しています。

平日の夜間診療はこちらへ

太田市平日夜間急病診療所
TEL.0276-60-3099

太田市飯塚町1549-1 太田市総合健康センター2階
診療日/月・火・水・木・金・土 ※日・祝祭日・年末年始は休診となります
受付時間/午後6時45分～午後9時45分

総合健診部 土曜日稼動についてのお知らせ



平成21年度より「第1・3・5土曜日の人間ドック」 「第2・4土曜日の特定健診」の受け入れ可能に



総合健診部では、H20年度医師不足等の理由で土曜日の健診者の方の受け入れを一部制限しておりましたが、H21年度の第1・3・5土曜日の「人間ドック」および第2・4土曜日の「特定健診」の受け入れが可能となりました。

また、H20年度から開始された特定保健指導についても引き続き行う方針が決まり、更に充実した健康へのサポートを目指していきます。



総合太田病院だより

ほーぷ

Fuji Heavy Industries Ltd Health Insurance Society
OTA GENERAL HOSPITAL PR BROCHURE

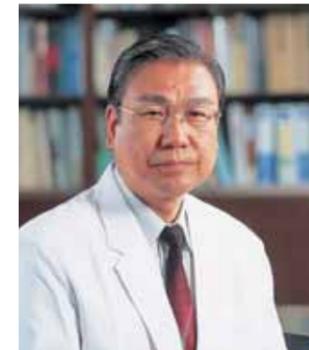
TEL.0276-22-6631(代) FAX.0276-25-7498

〒373-8585 群馬県太田市八幡町29-5

http://www.ota-hosp.or.jp

➤総合太田病院の移転建替え計画の検討について

➤ストーマ外来開始



総合太田病院長
難波 貞夫

現在医療体制は危機的な状況におかれています。その第1は病院における医師不足と看護師不足であり、第2に小泉内閣時代に定められた社会保障費の削減による医療提供側の経営難と患者様側の負担増大があります。

医師不足と経営難により地方の中核病院が閉鎖されるという事態が起こっています。さらに大都市でさえ救急車の受け入れが制限され、いわゆる「たらい回し」が報道されています。

行政はやっとこれまで長い間行ってきた医師数抑制策を転換し、医師を増やす方向になりましたが、効果が出るのは10年以上先の見込みです。

当院でも医師不足(特に一般内科医、産婦人科医)により診療を縮小させていただき、皆様には大変ご迷惑をおかけしておりますが、救急医療については、2次救急病院として太田市の救急車の約50%を受け入れております。

また4月からは若干医師が増えますので診療については多少改善すると思っております。それから新聞報道によりご存知と思いますが、各関係者のご協力により病院の移転新築計画が始まります。平成24年3月中に完成予定です。新病院の内容にふさわしい質の高い医療を提供できるように職員一同さらに努力を重ねてまいります。

総合太田病院の移転建替え計画の検討について

更なる病院機能の向上を目指して。

現在、当院では、平成24年度の開院を目指して、移転建替え計画を検討しております。

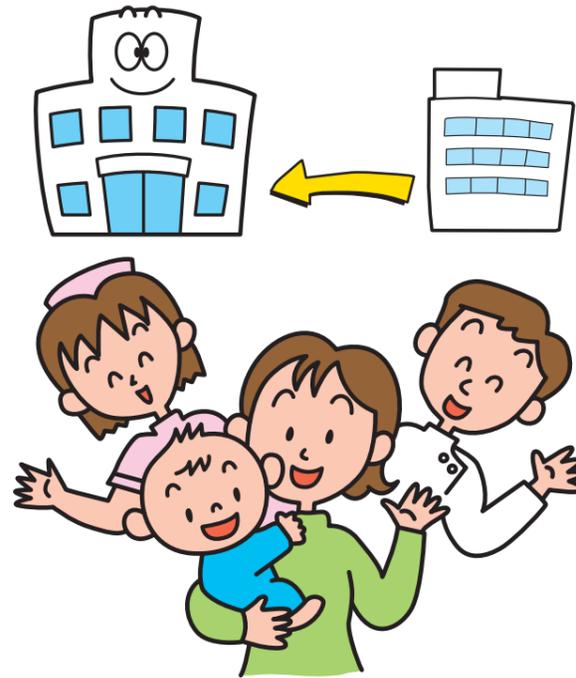
当院は、昭和21年より現在の太田市八幡町にて、増築を重ねながら診療に当たっておりますが、施設の老朽化、敷地の狭小により、皆様に、より安心して医療を受けていただくためには、いよいよ建替えをせざるを得ない状況となっております。

また、現在の敷地内での建替えは困難であることから、別の場所への移転建替えの検討を進めているところです。移転候補先は、現在の病院から西へ約700mの、東武桐生線西側沿いで、太田市大島町を候補地として検討しております。

新しい環境の中、地域の中核病院として、更なる機能向上を図るべく取り組んでいきたいと思っております。

本年1月には、当院内で、新病院建設委員会を発足させ、現状の問題点や改善点を具体的に検討する活動をスタートしました。

当院の基本理念である、「思いやりの心で行う医療」と、医療・看護の更なる安全と質の向上に、全職員で取り組むべく検討してまいりますので、皆様のご理解とご協力を、宜しくお願いいたします。



VOL. 1 外科外来のご紹介 特色および診療内容



副院長兼外科部長
神徳 純一



当院は小児外科が独立しており、外科は成人の外科系疾患の全般的治療を行っています。部長の神徳を含め8名の常勤医師が勤務しています。全国的に外科系の新人医師が不足していますが、現在のところスタッフには恵まれています。一般外来は、月曜から土曜日の午前中にやっていますが、受付時間外でもできるだけ救急疾患には対応しています。特殊外来としては、群馬県立がんセンターを定年退職された乳癌専門の木村盛彦先生による乳腺外来があります(月、木の午前)。また、昨年より第2、第4水曜日の午後に認定看護師によるストーマ(人工肛門)外来を始めました。取り扱う疾患は胃癌や大腸癌などの消化器癌が中心ですが、最近は乳癌の患者さんが著しく増加しています。その他、肛門疾患(痔)やそけいヘルニア(脱腸)や甲状腺腫瘍なども診療しています。

当科では癌の進行度や患者さんの予備力に応じた安全で過不足のない手術を目指しています。必要に応じて早期胃癌の内視鏡的治療(ESD)や腹腔鏡下手術も取り入れています。最近外来化学療法室を開設し、医師、薬剤師、看護師がチームを作り、有効かつ安全な化学療法(抗がん剤治療)を施行しています。当院はがんセンターではありませんが、癌の診療レベルは非常に高いと自負しています。逆に総合病院の強みをいかし、合併症のある患者さんや高齢者にも各科の協力を得て対応しています。

START

ストーマ外来開始

床ずれ、人工肛門(ストーマ)や失禁のケアについてのご相談をお考えの方に。

皮膚・排泄ケア認定看護師
山本 亜由美

皮膚・排泄ケア認定看護師は、創傷(床ずれなど)、人工肛門(ストーマ)や人工膀胱、失禁(便や尿の漏れ)などの方を対象に、専門的な知識や技術をもとにケアを行っています。

現在は、第2および第4週の水曜日、午後1時からストーマ外来(予約制・お一人様30分程度)を行っています。このストーマ外来が開設されたことで、入院中から退院後まで継続したケアを提供できるようになりました。患者様が抱えている問題を一緒に考え

ながらよりよい日常生活が送れるよう支援させていただきます。

最近では、当院の訪問看護ステーションと連携し、依頼時には同行訪問も行っています。また毎週火曜日は、入院中の患者様のベッドサイドでの直接ケア、スタッフやご家族や患者様への指導や相談などにも対応しています。

床ずれや、ストーマ、失禁などについて、お困りのことがございましたら是非ご相談ください。



第2、第4週の水曜日
午後1時から(予約制・お一人様30分程度)

Technical Preview

新看護システム導入の展望と課題



患者様情報



旧看護支援システムを導入して5年が経過しました。この看護支援システムではオーダリングシステムとの連携が困難であり、将来の電子カルテへの移行なども考慮した結果、新看護システムを導入することになりました。

新看護支援システムでは、オーダリングとの連動・患者様へのサービス向上・医療の安全・情報の共有・業務の効率化と業務支援がより緊密に行えるようになりました。患者様のベッドサイドで業務に必要な情報を即座に収集し、安全を確認しながらベッドサイドケアが出来る環境が整います。将来に向け患者様の情報を共有でき、患者様を含めた「みんなのカルテ」を作る事が大切であり、今後も改善と検討を重ね努力していきたいと思えます。

さらなるベッドサイドケアの充実、看護の質の向上に向け、新しいシステムに依存しパソコンの画面だけに集中する事なく、自分の五感を使い、患者様を見つめ向き合う姿勢を常に忘れず、自分の思考能力を高めて行くことを課題とし職員一同努力を重ねてまいります。